

職場体験を通して学んだこと

今回の三日間の職場体験では、主にグループホームに訪問させていただいたり、その他には、赤い羽共同募金の資材の仕分けや整理等などの仕事も体験させてもらい、普段体験できないようなことをたくさん体験することができました。

グループホームでの介護職体験では、入居者の方々と一緒に輪投げをしたり、職員の方々と昼食の準備や草取りなどをしたりと、さまざまな仕事をさせてもらいました。仕事をしている中で、食事の準備や、後片付けなどの仕事が特に一番大変でした。後片付けでは、紫緒君と職員さんとの三人で皿洗いをしましたが、腰が痛くなるくらい皿の量が多くてとても大変でした。一緒に手伝って下さった職員さんによると、食事の準備や後片付けなどはすべて一人でこなしているようで、それに加えてたくさん仕事があるのでとても忙しくて大変なのだ、と仕事を通して実感することができました。なので、大変な仕事だからこそ、自分で、または職員さんに聞いて仕事を見つけ、てきぱき働くことができたのだと思います。

また、入居者の方とのコミュニケーションを取る中で、最初はあまり話すことができませんでしたが、塗り絵などを一緒にしたりして距離感を縮めることができました。入居者の皆さんはとても明るくて、会話をしているうちに、自然とあたたかみを感じることもたくさんありました。

また、介護職体験の他にも、赤い羽共同募金の資材の仕分けや整理等などの仕事もさせていただきました。そこでは、募金箱を作ったり、チラシを分けたりするという作業をさせていただきました。募金箱を作る際、

仕事は自分たちのためにやるのではなく、まわりの人のことも考えてやらなければいけない

と担当者の齊藤さんから、教わりました。これを教わったとき、自分は、ただ淡々と作業をしていて、これを配る町民の皆さんのことは考えずに作業をしていました。これはこれから自分が学校生活を送る上でも、社会人になる上でも、とても大切な教訓になると思います。すべての仕事に対して、丁寧に、正確に、そしてまわりの事も考えて物事を進めていこうと思いました。

改めて三日間を振り返ってみて、とても貴重な体験をさせていただくことができました。たくさんの方々にご迷惑をたくさんおかけしましたが、大変お世話になりました。これからは、この体験で学びとったことを活かして生活して行こうと思います。今回は本当にありがとうございました。

鱒ヶ沢中学校 三年A組 蝦名真太郎